

指揮
沖澤 のどか
(京響常任指揮者)

©京都市交響楽団

PROGRAM

ウェーバー

歌劇「オイリアンテ」序曲

ブラームス

ハイドンの主題による

変奏曲 変ロ長調 op.56a

チャイコフスキー

交響曲 第5番 ホ短調 op.64

第15回
京都市交響楽団
名古屋公演

京響

2025
6/26

(木) 18:45開演
(18:00開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール



全席指定・税込

プラチナ席 ¥7,000 S席 ¥6,000 A席 ¥5,000 B席 ¥4,000 U22 ¥2,000

管弦楽
京都市交響楽団

©京都市交響楽団

プレイガイド

アイ・チケット 0570-00-5310 アイ・チケットWEBはこちら▶



- ・チケットぴあ ・ローソンチケット ・イープラス
- ・芸文プレイガイド 052-972-0430 ・栄プレチケ92 052-953-0777
- ・名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755

お問合せ

クラシック名古屋 052-678-5310

1/24(金)10:00~発売開始

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

【主催】クラシック名古屋、[公財]京都市音楽芸術文化振興財団・京都市

【後援】名古屋市、名古屋市教育局委員会

※未就学児のご入場はご遠慮ください。※車椅子席でご来場のお客様はクラシック名古屋にお問合せください。※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。
※U22は一般発売より、クラシック名古屋のみ取扱い。公演当日22歳以下、来場時に年齢確認有。お一人様1枚限り。

指揮／沖澤 のどか

Nodoka Okisawa, Conductor



2019年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝、併せてオーケストラ賞と聴衆賞を受賞。2018年東京国際音楽コンクール〈指揮〉優勝。第28回(2020年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第21回(2022年度)齋藤秀雄メモリアル基金賞 指揮部門、第1回(2023年度)毎日芸術賞ユニクロ賞受賞。2024年2月、総監督・小澤征爾氏の生前の指名でセイジ・オザワ松本フェスティバル史上初の首席客演指揮者に就任。サイトウ・キネン・オーケストラへは2022年の同フェスティバルでデビュー後、すぐに再招聘を受けた。故郷の青森で2025年夏にスタートする「青い海と森の音楽祭」芸術総監督。2020-22年ベルリン・フィル・カラヤン・アカデミー奨学生、及びキリル・ペトレンコ氏のアシスタント。2022年3月、連邦大統領主催のベルリン・フィルのウクライナのための連帯コンサートを指揮。2022年5月ペトレンコ氏とともにカラヤン・アカデミー50周年記念公演に出演。2023/24シーズンは、パーゼル室内管、ウィニペグ響、ケベック響、BBCウェールズ・ナショナル管にデビュー。また、東響及び2022/23シーズンにアーティスト・イン・レジデンスを務めたミュンヘン響へ再登場した。2024年6月にはNHK響で定期公演デビューを果たし、2025年は、2月に東京二期会へ『カルメン』で再び出演のほか、5月にはロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管へデビュー予定。読売日響、新日本フィル、日本フィル、都響など日本を代表するオーケストラへ定期的に客演。青森県生まれ。幼少期からピアノ、チェロ、オーボエを学ぶ。東京藝術大学で高関健、尾高忠明両氏に師事して修士号を取得。2019年ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンでC.エーヴァルトとH.D.バウム両氏のもと第二の修士号を取得。ベルリン在住。2023年4月から京都市交響楽団第14代常任指揮者に就任。

京都市交響楽団

City of Kyoto Symphony Orchestra



1956年、京都市が「京都の新たな文化財」として構想し、創立。日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つ。〈身近な存在として、市民に愛され誇りとされる〉〈文化芸術都市・京都の象徴となる〉オーケストラを目指し、京都コンサートホールでの定期演奏会をはじめ、小中学生対象の音楽鑑賞公演、0歳から入場できる幅広い世代への演奏会、アウトリーチ、若い人達への楽器講習会等、多岐にわたる活動を行っている。近年は小林研一郎、井上道義、大友直人、広上淳一らが常任指揮者を務め、2023年から沖澤のどかが第14代常任指揮者に就任した。2024年からはヤン・ヴィレム・デ・フリーントを首席客演指揮者に迎え、演奏の一層の充実を図っている。2025年度は、「王道!斬新!」を主催公演のテーマとし、京響ならではの独自性と魅力ある公演を展開する。2026年には創立70周年を迎え、〈世界に向けて最高の音楽を発信し続ける〉オーケストラとして更なる発展を目指す。